

活動名 (教科) 台風と気象情報 (理科)

対象学年 5 年

実施期間 9 月中旬～

実践者 (所属) 稲葉 裕子 (旭町小)

1. 指導にあたって

(1) この単元の特徴や指導の難しさ

- 台風の動きや進路と、雲の動きや天気の変化を結びつけて考えることが難しい。
- 台風による災害がどのようなものなのかわからない児童もいる。

(2) それを克服するための ICT 機器やメディアの活用 (利用の意図と工夫)

- 天気図や雲の衛星画像を見せて、台風の動き方や雲の多さなどに気づかせたい。
- 台風が接近しているときのニュース番組を録画し、雨風の強さを目で見て確認し、災害への備えなどを考える。

2. 単元の主な目標

- 台風の特徴やそれに伴う災害についての見方や考え方を持つようにする。

3. 指導計画の概要 (2 時間)

時間	学習内容	児童の活動 (利用メディア)	指導の留意点
1	○課題を把握する。 「台風ってなんだろう？」 ・台風について知っていることを話し合う。 ・台風のこれからの動き方や天気の変化を予想する。 ・台風への備え、気をつけることを話し合う。	・録画しておいたニュース番組を視聴する。 ・雲の衛星画像を見て、台風の目の位置を確認する。(プロジェクタ、マグネットスクリーン、パソコン)	・台風が近づいているときに学習に入る。 ・「台風=大雨」とだけとらえていて、強風や川の増水については気づいていない児童もいるので、全体で話し合うときに取り上げるようにする。
1	○学習のまとめ ・台風が最も接近していたときの天気や家庭での生活について話し合う。 ・1 週間の台風の動きを整理する。 ・台風と災害の関係について考える。 ・学習のまとめをする。	・録画しておいたニュース番組を視聴する。 ・時間の経過とともに変化する雲の動きから、台風の目に着目し、台風の動きをたどる。 ・学校放送「ふしぎワールド」第 9 回「秋の天気と台風」を視聴する。	・ニュース番組を視聴したあと、交通機関の乱れや事故などについても話し合い、台風の怖さも感じられるようにする。 ・台風が接近しているときの過ごし方を考え、災害に備えるための具体的な方法を考えられるようにする。

4. 取り組み後の子ども達の変容や成果

雲の画像から、台風の目が台風の中心であることや、台風の目の回りに巻いている雲の多さを知ることができた。雲の多さについては、画像の白色の濃さですぐにわかったようで、「あの下は大雨だな。」という声が聞こえてきた。

ニュース番組の中で、学校のすぐ近くにある多摩川が増水し、河川敷を飲み込むようにして流れている様子が映っていたことも、台風に伴う災害について考えるよい教材となった。

学校放送では、特に風の強さを体感している映像に興味を持っていた。強風の中では、傘が役に立たないこと、人が立ってられないような状態にも成り得ることが分かったようである。